

報告（２） 平成29年度の事業概要

I. 文化財保護課の体制

久留米市 〒830-8520 久留米市城南町15-3 bunkazai@city.kurume.fukuoka.jp				
	課長	チームリーダー	事務職	専門職
<p>市長 檜原 利則 副市長 橋本 政孝 森 望</p> <p>教育長 大津 秀明 0942-30-9000</p> <p>市民文化部 (市長部局) 市民文化部長 野田 秀樹 文化芸術担当部長 甲斐田 忠之</p> <p>市民文化部次長 西村 信二</p> <p>文化財保護課 0942-30-9225 (埋文) 0942-30-9322 (保護) 0942-30-9323 (管理) FAX 0942-30-9714</p> <p>埋蔵文化財センター 0942-34-4995 FAX 0942-34-5045</p> <p>文化財収蔵館 0942-38-6194 FAX 0942-34-5045</p> <p>西町発掘調査事務所 TEL/FAX 0942-37-7687</p>	文化財保護課	埋蔵文化財 課長補佐 山崎 万里子	事務主査 豊福 早苗 橋之口雅子(任)	主査 水原 道範 事前確認 塚本 映子(事務主査) 大隈 彩未 西町発掘調査事務所 神保 公久 江頭 俊介 西 拓巳 小川原 励 米澤 美詠子(専) 宮崎 彩香(専) 岩坪 純子(専) 埋蔵文化財センター 熊代 昌之
		課長兼埋蔵文化財 センター所長 馬場 博文		
		文化財保護 主査 丸林 禎彦		本田 岳秋 小澤 太郎 江島 伸彦 穴井 綾香 廣木 誠 佐藤 響子 文化財収蔵館 寺崎 勝美(嘱) 石橋久美子(専) 石橋 裕佳(専) 六ツ門展示コーナー 中村 吉文(再) 松田 弘(嘱)
	管理 課長補佐 白木 守		事務主査 豊福 早苗 事務主査 岡崎 明美 市村 久美子 倉吉 孝道 石松 眞知 高取 莉沙(任) 古賀 文子(任)	
六ツ門図書館展示コーナー 0942-27-9281 FAX 0942-27-7281	(公財)久留米緋 技術保存会 事務局長 馬場 博文	事務局次長 丸林 禎彦	大藪 住江	
有馬記念館 TEL/FAX 0942-39-8485	(公財)有馬記念館 保存会 事務局長 馬場 博文	事務局次長 白木 守	岡崎 明美 高取 莉沙(任)	穴井 綾香 佐藤 響子

(再) は再任用職員、(嘱) は嘱託職員、(専) は専任非常勤職員、(任) は任期付非常勤職員の略。

Ⅱ. 文化財の指定

年度当初で久留米市内の指定文化財は、国指定文化財 32 件、県指定文化財 43 件、市指定文化財 104 件、国登録文化財 5 件である。

久留米市内の指定文化財一覧表

指定別	総数	有形文化財										無形文化財	有形民俗文化財	無形民俗文化財	史跡	名勝	天然記念物	選定技術保存	登録文化財
		総数	建造物	絵画	彫刻	工芸品	書跡	典籍	古文書	考古資料	歴史資料								
総数	179	81	21	11	18	9	2	0	8	9	3	2	31	10	23	1	26	0	5
国	32	20	2	3	4	2	2	0	0	0	0	1	0	1	9	0	3	0	5
県	43	22	8	3	3	3	0	0	2	3	0	1	5	2	6	0	7	0	0
市	104	46	11	5	11	4	0	0	6	6	3	0	26	7	8	1	16	0	0

(平成 29 年 3 月 31 日) ※史跡と天然記念物に二重指定されている「目安町の一里塚」は史跡に含んでいる。

平成 29 年度については、新たに指定を予定している物件はない。

Ⅲ. 埋蔵文化財調査事業

1. 事前確認及び発掘調査事業

ここ数年民間開発に伴う分譲・宅地造成・マンション建設に伴う発掘調査が依然として増加傾向にある。窓口での「埋蔵文化財包蔵の有無についての照会」（事前確認）は、前年比1.2倍と増加傾向にある。また、市街地の小学校建て替えに伴う調査も31年度まで予定されており、公共・民間事業共に減少の兆しは見られない。

6月現在発掘調査中および調査予定の遺跡

調査番号	遺跡名	調査期間	担当者
201701	南薫西遺跡第2次調査	平成29年4月12日～平成29年4月25日	小川原・神保
201702	白川遺跡第14次調査	平成29年4月13日～平成29年5月15日	西
201703	麓遺跡第1次調査	平成29年4月12日～平成29年5月31日	江頭
201704	高三潞遺跡第7次調査	平成29年4月19日～平成29年6月15日	小川原
201705	白川遺跡第15次調査	平成29年5月15日～平成29年5月31日	西
201706	久留米城下町遺跡第26次調査	平成29年6月5日～平成29年6月30日予定	神保・大隈
	白川遺跡第16次調査	平成29年6月1日～平成29年8月31日予定	西
	白川遺跡第17次調査	平成29年6月22日～平成29年8月31日予定	西
	庄島侍屋敷遺跡第11次	平成29年6月26日～平成29年7月14日予定	江頭
	筑後国府跡第289次調査	平成29年7月3日～平成29年8月31日予定	小川原

2. 埋蔵文化財センター

平成27年度から実施している国庫補助事業の「地域の特性を活かした埋蔵文化財活用事業」では、筑後国府跡の再整理に着手しており、平成28年度末にI期政庁地区の正式報告書を刊行し、引き続き整理作業を実施している。

今年度は、継続し、阿弥陀地区の出土資料を再点検し、報告書を発行する予定である。

この他、前年度同様、発掘調査および報告書が刊行された遺跡について、出土品を含む記録類の受け入れを行い、資料の貸出や閲覧に対応できるよう情報を管理し、収蔵する。

IV. 文化財保存・整備事業

本年度に係る事業は、美術品3点の修復、熊本地震関連修復事業1件、建造物関連事業3件、民俗文化財保存事業2件、史跡等の整備に係る事業3件、名勝・天然記念物保存事業2件である。

1. 有形文化財

(1) 収蔵資料補修事業

平成29年度の収蔵資料補修事業は、船曳大滋「筑後国府図」(紙本墨画・掛幅装)、「吉山佐平次像」(紙本墨画淡彩・掛幅装)、「吉山喜右衛門像」(紙本着色・掛幅装)の3点について実施する。補修は熊本市の富永米山堂へ委託する予定である。

(2) 熊本地震関連修復事業

①上野家住宅御成間保存修理事業

平成28年4月の熊本地震により、建物全体にゆがみが生じ、建物内外面の土壁各所にクラックや、壁土の浮きが発生した。これらの修復を行うとともに、礎石周りや小屋裏等、必要な構造補強を実施する。

(3) 建造物関連事業

①高良大社本殿・幣殿・拝殿保存修理事業

事業最終年度となる平成29年度は、箱棟瓦復旧等による屋根工事の仕上げを行い、縁廻りの補修、塗装工事、耐震工事などを実施する。平成29年8月31日事業完了予定である。

②寺町歴史的建造物等調査事業

平成25年度より実施している事業で、本年で5か年目となる。本格的な調査が実施されていなかった寺院建造物群について、悉皆調査を行っている。その価値を再評価し、将来の指定や観光資源開発を図る。過去4年間で11カ寺院を調査しており、今年度は徳雲寺の調査を予定している。

③本泰寺山門修復事業

経年劣化によると考えられる瓦のずり下がり、木部瓦座の脱落および雨漏りによる木材の腐食等が見られるため、修復を実施する。

(4) 史料調査事業

①高良大社歴史資料調査事業

高良山総合調査の一環として、平成29年度より2か年の予定で実施する国庫補助事業で、高良大社歴史資料の悉皆調査及び保存整備を目的とする。平成30年度に報告書を刊行する。

2. 記念物

(1) 史跡等の整備に係る事業

①筑後国府跡歴史公園整備事業

平成 29 年度については、2 件の史跡地の買上げを予定している。字脇田および字阿弥陀のいずれもⅡ期政庁地区を対象とする。契約が成立すれば、全体の公有化率は 86.65%となる。

②史跡筑後国府跡保存活用計画策定事業

平成 30 年度から 2 か年の計画で保存活用計画を策定する。事業初年度は 1/1,000 縮尺の地図と筑後国府跡の現地調査を行い、現況を確認する。

③史跡下馬場古墳石室内環境調査

東京文化財研究所の協力を得て、保護施設の老朽化による石室内への温湿度の影響、将来の古墳公開のあり方を考えるための基礎データ取得を目的として、石室内の温湿度調査を実施する。石室内に温湿度計を 4 基、石材の表面温度を測る温度計を 8 基、屋外に温湿度計を 1 基設置している。調査期間は、平成 26 年 9 月から平成 30 年 4 月までを予定している。

(2) 名勝・天然記念物保存事業

①県指定天然記念物「善導寺の大クス」再生事業

平成 28 年度より開始した再生事業で、本年度は、土壌改良および剪定を実施する。平成 32 年度完了を目指す。

②県指定天然記念物「柳坂曾根のハゼ並木」剪定事業

例年 1 月下旬に実施しており、地元と協力を図り、剪定作業を実施する。

V. 文化財の活用・周知普及

1. 公開活用事業

(1) 久留米市六ツ門図書館展示コーナー

六ツ門図書館展示コーナーは、平成22年10月の開館以来、毎年1万5千人を超える来場者を数えている。平成28年度には、累計入館者数が10万人を達成した。平成29年度は、当課主催企画展を2回開催し、更なる歴史文化の周知普及をすすめる。なお、企画展の会期以外では、例年のように、他部局主催の展示を行う予定である。

① 平和資料展「軍都久留米の風景とくらし」

会期：平成29年7月8日（土）～平成29年9月24日（日）

主旨：久留米市は、明治22年（1889）4月に最初の市制施行で全国30都市とともに誕生した。発足当時、最小規模の市であった本市が発展の手段として選んだのは、軍都への道だった。官民あげての猛烈な軍隊の誘致活動の末、連隊や師団の移駐が決定した。市街地郊外には、軍施設の建築ラッシュと道路網の整備が進み、地域経済は発展していった。しかし十五年戦争が始まると、街は戦争一色となっていく。そして、運命の昭和20年8月11日、久留米市は米軍の空襲を受けて焦土と化し、軍都は終戦を迎えた。

本展示では、わが国有数の軍都の歩みを、当時の街の様子や市民生活を伝える写真や資料で振り返り、平和の尊さを訴える。また、関連するイベントとして、平和資料展講座と紙芝居上映を行なう。

② 企画展「むかしのくらし展」

会期：平成29年11月25日（土）～平成30年3月25日（日）

主旨：例年、小学3年生の社会科学習の「むかしのくらし」単元に合わせ、久留米の昔の暮らしをテーマとする展示会を実施している。本年度は生活スタイルの変化の中、忘れ去られようとしている年中行事と祭りをとりあげる。展示にあたっては、市内外の小学校との連携を図り、学校教育を支援する。また、介護施設などに入所する高齢者の記憶を呼び起こし、思い出を語り合う回想法の場としての広報を行い、団体客の利用を促進する。

六ツ門図書館展示コーナーにおける他部局実施展示一覧(平成29年4～6月)

会期	展示会名	主催	入場者数(人)
4月1日～4月13日	自殺対策パネル展	健康福祉部保健予防課 ※会期は3月12日～	124
4月15日～5月14日	消費者啓発パネル展	協働推進部消費生活センター	344
5月17日～6月18日	人権ポスター展	協働推進部人権啓発センター	374

(2) 久留米市埋蔵文化財センター

普及事業としては、通年において収蔵資料の貸し出し及び閲覧に対応できる体制を整える。

また、展示会等の公開事業としては、常設展示を行う。

体験イベントとしては、「みづま祭り」において『勾玉づくり』のブースを設け、多くの市民に体験してもらい、文化財の普及・啓発を行う。

8月には山川校区コミュニティセンターを会場として、「山川の歴史展」を開催する。山川校区の発掘調査の成果や地元に残る史跡を紹介した企画展を開催する。

(3) 坂本繁二郎生家活用事業

坂本繁二郎生家は、近代洋画の巨匠である坂本繁二郎の生家であるのと同時に久留米市に唯一残る武家屋敷である。その地域的重要性を検討して平成15年7月に久留米市有形文化財（建造物）に指定された。平成18年度から平成21年度までの4年間をかけて修理復原工事を行い、平成22年5月1日から一般公開をしている。生家では、年間を通じて様々な体験講座を開催しており、文化財の周知普及に努めている。

【目標】年間来場者数：7,500人（平成29年4月1日～平成30年3月31日）前年実績比12%増

【開館日数】307日

<季節行事>

七夕まつり	期間：平成29年7月1日（土）～8月6日（日） 対象：一般 入場料：通常通り（短冊を飾りに来た場合は無料） 内容：願い事を書いた短冊を笹竹に飾る。	300人 （見込）
ひなまつり	日時：平成30年2月6日（火）～4月1日（日） 対象：一般 入場料：通常通り 内容：坂本家に伝わる雛人形を展示し、期間中に体験事業・生誕記念コンサート・お茶会を実施。	1,500人 （見込）

<お茶会>

お茶を楽しむ会	日時：平成30年3月21日（水、祝）10時～15時 主催：江戸千家久留米不白会 共催：文化財保護課 対象：一般 茶券：一般500円、中学生以下300円 ※入場料（団体料金）を含む。	80人 （見込）
---------	--	-------------

<ミニコンサート>

七夕ナイト	日時：平成 29 年 7 月 22 日（土）19 時～21 時 演者：代表 松本 久実子 氏（京泉会） 対象：一般 入場料・参加費：無料 内容：生家の庭を竹燈籠とペットボトルキャンドルで彩る。 19 時 30 分から一時間程度、大正琴の演奏を行う。	50 人 (見込)
生誕記念 コンサート	日時：平成 30 年 3 月 3 日（土）14 時～15 時 演者：未定 対象：一般 入場料・参加費：無料	50 人 (見込)

<体験事業>

茶レンジ！ こども茶会	日時：平成 29 年 6 月 25 日（日）10 時～12 時 講師：森田 宗尚 氏 対象：小学生 入場料・参加費：無料 内容：お茶の作法について先生から学ぶ。	30 人 (実績)
流しそうめんを 食べよう	日時：平成 29 年 8 月 19 日（土）10 時～12 時 対象：小学生 入場料・参加費：無料 内容：青竹で箸と器を作って、地元住民と一緒に流しそうめんを 食べて楽しむ。	80 人 (見込)
画伯に チャレンジ！	日時：平成 29 年 11 月 18 日（土）10 時～15 時 講師：宇美 拓哉 氏 対象：小学生 入場料・参加費：無料 内容：生家・庭の中からテーマを決めて絵を描く。	30 人 (見込)
餅つき大会	日時：平成 29 年 12 月 16 日（土）10 時～12 時 対象：小学生 入場料・参加費：無料 内容：地元住民とともに、餅つきをして、ついた餅を食べる。	80 人 (見込)
けん玉で遊ぼう	日時：平成 30 年 2 月 17 日（土）10 時～12 時 講師：横道 勝紀 氏 対象：小学生 入場料・参加費：無料 内容：けん玉を使った様々な遊びを楽しむ。	20 人 (見込)

<落語>

素人落語寄席	日時：平成 30 年 1 月 20 日（土）14 時～16 時 対象：一般 入場料・参加費：無料 講師：久留米落語長屋 内容：新年に因んだ演目の寄席を行う。	60 人 (見込)
--------	---	--------------

(4) 「みる、きく、そうぞうする - 緋と機巧 - 」

江戸時代後期に久留米で生まれた、久留米緋の創始者である井上传と、東芝の創業者の一人である田中久重の偉業や作品を通し、来場者が「観る・聴く・触れる」などの方法で作品を体感し、緋と機巧（からくり）の技に親しみを抱ける企画。

期 間 平成 30 年 1 月 2 日（火）～1 月 10 日（水） *会期中無休
会 場 久留米シティプラザ 展示室
入場料 無料

(5) 山川の歴史展

28 年度に作成した「山川校区の文化財マップ」の内容を中心に、校区内の文化財を紹介する。

期 間 平成 29 年 8 月 2 日（水）～8 月 30 日（水）
会 場 山川校区コミュニティセンター
休館日 土・日曜日、祝日、8 月 14・15 日

(6) 歴史探訪

文化財の周知と普及を図るため、身近な遺跡等を巡るバスツアーを実施する。

期 日 平成 29 年 10 月頃
定 員 40 人程度
費 用 参加費は無料 ※昼食は実費負担

2. 協働・支援活動

(1) 出前講座

市民向け講座として全庁的に取り組む「出前講座」では、文化財保護課は次の 2 メニューを受け持つ。

- ①私のまちの歴史と文化財
- ②歴史を体験

(2) 実習受け入れ

受入期間：平成 29 年 8 月 17 日～25 日（うち 7 日間）

受入人数：久留米大学 4 名

受入施設：久留米市埋蔵文化財センター、久留米文化財収蔵館ほか

3. 刊行物

(1) 久留米市文化財調査報告書

第 386 集	『筑後国府跡 - 第 286 次調査 - 』	平成 29 年 8 月
第 387 集	『十間屋敷遺跡 - 第 6 次調査 - 』	平成 29 年 10 月
第 388 集	『十間屋敷遺跡 - 第 7 次調査 - 』	平成 29 年 10 月
第 389 集	『十間屋敷遺跡 - 第 8 次調査 - 』	平成 29 年 10 月
第 390 集	『筑後国府跡 - 第 287 次調査 - 』	平成 30 年 1 月
第 391 集	『へボノ木遺跡 - 第 73 次調査 - 』	平成 30 年 1 月
第 392 集	『筑後国府跡 - 第 288 次調査 - 』	平成 30 年 3 月
第 393 集	『麓遺跡 - 第 1 次調査 - 』	平成 30 年 3 月
第 394 集	『京隈侍屋敷遺跡 - 第 18 次調査 - 』	平成 30 年 2 月
第 395 集	『汐入遺跡-第 2 次調査-』	平成 30 年 2 月
第 396 集	『汐入遺跡-第 3 次調査-』	平成 30 年 2 月
第 397 集	『久留米市文化財集報 X VIII』	平成 30 年 3 月
第 398 集	『平成 29 年度 久留米市内遺跡群』	平成 30 年 3 月
第 399 集	『筑後国府跡－Ⅱ期（阿弥陀）政庁－』	平成 30 年 3 月
第 400 集	『正福寺遺跡-第 7 次調査-土器・石器編』	平成 30 年 3 月

以上を刊行する予定である。

(2) その他の刊行物

- ・歴史散歩 2 冊（内容は未定）
- ・文化財マップ「三瀧町（犬塚・西牟田・三瀧）校区」
- ・収蔵館ニュース

(3) 文化財説明板作成設置

久留米市内の指定文化財を中心に、文化財を解説する案内板を毎年、作成している。

本年度は「寺徳古墳」、「上野家住宅御成間」、「上野家庭園」、「伯東寺」に関する文化財説明板を修繕予定。

報告（3） 次年度以降の諮問予定資料について

① 虫追い祭り

平成 27 年度に保存団体である J A にじ青年部から、市指定文化財への打診があった。田主丸町の年中行事として、少なくとも江戸時代より行われていることが『石原家記』の資料から伺える。戦後、一時、中断していたが、J A にじ青年部によって 3 年に一度の開催として再開された。本来の祭りとは開催方法などで異なる部分はあるが、虫追い祭りに不可欠な平氏と源氏の人形、馬は踏襲されている。27 年度の文化財専門委員会でも説明。

② 田中久重関係資料

久留米出身の発明家、からくり儀右衛門こと田中久重に関する資料で、市が収集を予定している資料について検討中。

③ 正福寺遺跡出土資料

平成 15・16 年度に実施した低湿地の調査で、縄文時代後期のイチイガシを中心とした堅果類の貯蔵穴 60 基近くを検出。160 点を超える編みかごなどの編組成品や、杓状（しゃくじょう）木製品、石斧が装着された状態の直柄（なおえ）などが出土。

④ 久保遺跡出土の土器群

城島町に所在する遺跡。平成 15・16 年度の調査で、弥生時代早期にあたる黒色磨研（まけん）土器が 50 点近く出土しており、朝鮮半島との関連が指摘される遺跡でもある。

⑤ 高三瀦遺跡出土の小銅鐸・連玉

近年、高三瀦遺跡群内での調査が増加しており、平成 26 年度の第 4 次調査では、弥生時代後期の小銅鐸が出土。久留米市の新府遺跡で小銅鐸の鋳型の出土例はあるものの、小銅鐸の出土は久留米市内では初見である。

また、平成 27 年度の第 5 次調査では、同じく弥生時代後期の甕棺墓内から、多量のガラス小玉や赤色顔料に伴って、全国で 3 例目となる連玉が出土。学史的な見地からも重要な遺跡であり、今後、調査を進めていく。

⑥ 隈山古墳群出土の銀製くちなし玉

国分町に所在する遺跡。平成 24 年度に古墳 2 基の調査を行い、6 世紀後半の 2 号墳から、銀製の梔子玉 14 個体分が出土。全国的にも 20 例余り、九州内では壱岐の 2 例が知られているのみで、貴重な事例である。

候補⑤ 高三瀦遺跡出土の小銅鐸

遺跡名：高三瀦遺跡（第4次調査）

所在地：久留米市三瀦町

内 容：小銅鐸1点

遺跡の性格：弥生時代の拠点集落

遺跡の概要：

筑後川の支流である広川左岸に形成された低台地上に立地する。標高6mを測る。本遺跡から出土する土器は弥生時代後期の標識土器「高三瀦式土器」として全国的にも有名である。

調査地は高三瀦遺跡の南東部にあたり、調査区のほぼ大半が幅約3mの大溝（SD5）で占められている。

SD5からは大量の土器とともに木製品などの有機質遺存体が多量に出土しており、上層からは青銅製の小銅鐸1点が出土している。周辺からは銅剣の出土も伝えられており、筑後地方では数少ない、青銅器を保有した弥生時代の拠点集落と想定される。

所有者：久留米市

報告書：未刊行

小銅鐸の概要：

小銅鐸は弥生時代に製作された銅鐸の小型品と考えられているが、実際の使用法については明らかになっていない。全国で約60例が知られているが、九州では15例程度、福岡～糸島平野付近に集中する傾向が認められる。近隣では佐賀県鳥栖市本行遺跡で出土しているが、筑後地方では初出土である。出土した小銅鐸は長さ6.5cm・幅4.0cm・厚さ2.7cm程度で、小銅鐸としては平均的な大きさである。

元来、筑後川以南では弥生時代の青銅製品が出土することは非常に少なく、小銅鐸という当時極めて貴重であった青銅製品が出土したことによって、高三瀦遺跡が弥生時代の拠点集落であることが判明した。銅剣が複数出土した伝承などと勘案すると、本遺跡が北部九州を代表する「クニ」に相当する可能性を想起させるなど、極めて重要な資料である。



▲第4次調査SD5出土の小銅鐸

候補⑥ 隈山古墳群出土の銀製くちなし玉

遺跡名：隈山古墳群

所在地：久留米市国分町

内 容：銀製くちなし玉 15 点（破断品含む）

遺跡の性格：古墳時代後期の群集墳

遺跡の概要：

耳納山地西麓の高良山（標高 312m）から西に派生した、通称「隈山丘陵」と呼ばれる高良川右岸の標高約 50m の丘陵上に立地する。丘陵尾根上に古墳群は展開しており、都市計画道路整備事業に伴い平成 24 年度に発掘調査を実施した。

調査では直径約 22m の円墳である 2 号墳と、15m 程度の 3 号墳を検出した。両古墳ともに複室構造の横穴式石室を内部主体とし、副葬・共献用の土器や具気・馬具などの鉄器類、銀製くちなし玉を含む多種多量の玉類など豊富な遺物が出土している。古墳時代後期～奈良時代にかけての葬送儀礼や社会情勢を知る上で貴重な資料となっている。

所有者：久留米市

報告書：『隈山古墳群 第 1 次調査報告書』久留米市文化財報告書第 360 集 久留米市教育委員会 2015

銀製くちなし玉の概要：

くちなし玉は、古墳時代の空玉（中が空洞になった玉）の一種で、形状がくちなしの実に似ていることから名付けられている。直径約 1.5 cm、重さ約 1.5 g 程度で、外面には鎊が認められ、銀線などを通して連ねて首飾りとして使用されたと想定される。

くちなし玉が出土した古墳は全国で 25 例程度とほとんど例がなく、九州では長崎県壱岐市で 2 点が出土しているのみである。概ね近畿地方を中心とした皇族や有力豪族の古墳から出土する傾向が認められることから、久留米にも有力な豪族が存在し、久留米が全国的にも重要な交通・経済・軍事・政治の要衝であったことを示している。以上のように、隈山古墳群出土の銀製くちなし玉は、久留米市が筑後地方の中心地として発展していく過程を考える上で極めて重要な価値を有している。



▲ 2 号墳出土の銀製くちなし玉